

会 議 の 概 要

会議名	令和 8 年度 第 1 回宝塚市食育推進会議
開催日時	令和 8 年（2026 年）8 月 20 日（木）午後 2 時～午後 4 時
開催場所	宝塚市役所 4 階 特別会議室
出席委員	佐々木委員、松岡委員、永井委員、安藤委員、細川委員、岡橋委員、 石谷委員、植田委員、日下委員、今西委員、坂田委員、関口委員、 尾中委員、野口委員 （14 名）
欠席委員	牧戸委員、酒井委員 （2 名）
傍聴者数	なし
公開の可否	公開
1 開会 2 議題 （1）第 3 次たからづか食育推進計画の概要 （2）市で取り組む食育に関する事業 ～令和 7 年度実績及び令和 8 年度計画～ （3）食育推進計画について （4）その他 3 連絡事項 次回、令和 8 年度 第 2 回宝塚市食育推進会議 ⇒ 令和 9 年 2 月～3 月を予定 4 閉会	

【会長及び会長職務代理者の選出について】

引き続き、会長は、甲子園大学栄養学部教授 佐々木委員、職務代理者は、宝塚い
ずみ会会長 岡橋委員が行なう。

（1）第 3 次たからづか食育推進計画の概要

（事務局）

事務局より、第 3 次たからづか食育推進計画の概要について説明する。（資料 2）

（2）市が取り組む食育に関する事業～令和 7 年度実績及び令和 8 年度計画～について

（事務局）

市が取り組む食育に関する事業 令和 7 年度実績及び令和 8 年度計画について、説
明する。（資料 3・4・5）

(委員)

逆瀬川アピア1のイベントでは、食事バランスを意識していただくために、展示している啓発パネルから問題を出題する「パネルクイズ」を行なった。

参加者に、日頃から食事バランスを意識しているのかを聞いたり、フレイル予防に関する話をしたりすることができた。

隣のブースでは「骨の健康度」や「野菜摂取度」の測定を行っており、来訪者も多く、多くの方に効果的に啓発をすることができた。

小学校での出前講座では、お味噌汁づくりを行なった。自然学校でカレーライス作りをする前に、全員がピーラーや包丁の練習をすることができた。

(委員)

今年度は、小学校での出前講座の依頼を25回受け、1学期中に2校で7回のお味噌汁づくりを行なった。

恐る恐る行なっている子どもも、同じ班の子どもたちに励まされ、皆で最後まで具材を切り、調理をすることができた。最後に美味しかったと声をかけられ嬉しかった。

10月から12月までに残り18回の開催が残っている。会員数が少ないため、開催日程が詰まらないようにしてもらえるとありがたい。

(会長)

次年度予定を組む際には、そのあたりの検討もよろしくをお願いしたい。

(委員)

小学校からの依頼が増え、出前講座が定着し、食育関係団体の活動が評価されていることは良いことと思う。

負担が生じていると思うが、各小学校に広がり、宝塚市での食育活動の柱の1つとして、今後も継続できればいいと思う。

私自身も、3年前から宝塚市で品種改良された「宝交早生いちご」(ほうこうわせいちご)を使った食育・環境学習を宝塚市に関係のある企業の協力を得て行っている。2校の小学校でもいちごを植え、環境のことや食べ物を大事にする資源循環などについて子どもたちと一緒に考える機会を作っている。

この活動を広げるために、宝塚自然の家に拠点を置き、宝交早生いちごの苗を作る活動を始めている。

(委員)

普段はフードドライブの啓発活動や地域食堂などに携わっている。末広体育館や健康センターに横断幕やのぼりを設置していても、住んでいる地域が異なると啓発活動をご存じない方もいるのではないかな。

地域でボランティア団体を立ち上げ、春の山本の植木まつりに出店した。植木まつりと言えば、花や植木に興味のある方、ご年配の方向けのイベントという認識をされていたようです。私たちの団体は、親子で楽しんでもらえるように、格安の遊び場所や飲食ブースを作った。多くの来場者があり、市も、そのような場所に食育ブースを出店してはどうか。

昨年イベントを実施した「たからの市」のことを私は知らなかった。新たな活動の場も必要なのではないかな。秋に出展するイベントでは、健康に関するブースを保険会社が出す予定である。そのような企業と連携し食育啓発をする絶好の場だと感じたので、お伝えさせていただいた。

(事務局)

貴重なご提案をいただき、御礼を申し上げます。

フードドライブの取組は、食品ロスの削減に関係があり、子ども食堂などでも活用されていたり、環境面でも食育の面でも非常に幅広く意味のある取組だと思っている。

切り口は違うが、本市でも食品ロスの取組は大切なものと考えている。「食」の部門と「環境」の部門、子どもと関わっている「地域福祉」等が集う食品ロスに関する庁内の会議体ができた。そこでも情報交換しながら考えていきたい。

横断幕や地域での啓発方法については、ご指摘の通りだと思っている。横断幕をどこに設置できるのか、相談をしながら協力をいただいているところである。

啓発イベントについては、食育関係各課が集まった際に、新しいイベントを行なう予定はないか、良い啓発会場はないか等の情報交換を行ないながら検討している。

少しずつ工夫をしながら広めているところであるが、委員の皆様からもよい方をいただければ、検討したい。

(委員)

逆瀬川アピアのイベントで骨の健康度測定の待ち時間が長かったとの話があったが、私の大学時代の文化祭でも、人気も集客力もある骨密度測定を行なうことが多かったが、やはり時間はかかった。費用面もあるかもしれないが、今後実施する機会があれば、除脂肪体重、筋肉量を測定するブースを1つ増やすことで、待ち時間を減らすことができると思う。ご検討いただければと思う。

(事務局)

今回の取組の計測は、近畿中央ヤクルト販売株式会社に器材やスタッフの協力をお願いしている。最近では、健康づくりに意識を向ける企業が増えており、自治体と連携しこのようなイベント開催をしてくださることも増えている。

市の財政負担を抑えつつ、多くの市民に啓発することができる良い機会と思っている。いただいたご意見なども共有しながら、どのようなことができるか検討していきたい。

(委員)

資料5の裏面のQRコードからこれまでの主な取組について検索すると、「花と緑のフェスティバル」の記事が、現在も実施されていると掲載されている。

「たからづか食育フェア」については、コロナによる事業見直しと記載されているが、見直した結果が掲載されていない。

細かいところではあるが、市民が見た際、疑問に思われるところは修正されていた方がよいと思う。

(事務局)

修正する。

(委員)

先ほど植木まつりの話があったが、当店の山本店が植木まつりへ出店する。当店のブースにのぼりを設置することができるのではないかと思った。このような会議を通じて、どの団体がどのようなことをしているのか把握した上で検討してはどうかと思う。

当店には、宝塚だけで約7万3000人の組合員がおり、その中でアナウンスをすることができる。本来の事業もあるが、委員の皆さんが言っている内容を広げたり、結びつけたり、ハブのような拠点としてお役に立てればと思っている。

(委員)

食生活や食育に関心があり、会の代表として参加させていただいた。

近年、忙しい保護者が増える中で、子どもたちにはできるだけおいしいもの、温かいものを食べさせてあげたいと考えている。

のぼりの啓発について学校等に設置できないかなと思った。学校も協力してもらえるのではないかなと思った。

(事務局)

子どもに食に関することはこの審議会でもよくご意見をいただいております、そのようなことから、令和6年度より小学校における食育出前講座を始めた。

国は「大人の食育」を進め始めており、近年の重要施策として位置付けられている。

小学校は保護者の出入りも多く、大人への啓発にもつながる。そのような切り口からも小学校へのぼりの設置は有効だと思う。

設置については、施設を管理している学校側に権限があるため、小学校・教育委員会に相談し、できることから行なっていきたい。

(委員)

管理栄養士の資格を持っており委員として参加させていただいた。自身の子どもも学校で食育の授業を受けており、この審議会で議論された内容が結びついていることを実感している。

子どもが学校で学んだことを家庭で話すことで、保護者への啓発にもつながっており、出前講座が家庭の食育に波及効果をもたらしていると感じている。

小学校でPTAにも入っており、お祭りをする予定。そのような時にのぼりの設置などもできるのかなと思った。

(会長)

甲子園大学で、管理栄養士養成課程の栄養学科食育コースの学生が「親子で作ろう 大学農園の夏野菜カレー教室」というイベントを行なった。学内の農園で栽培しているナス・ピーマンの収穫体験を行ない、その具材を使ったカレーを作った。

食後には学生が夏野菜クイズを行ったり、農園を管理している教員から野菜の栽培に関する講話を行ったりした。収穫した野菜をお土産にしたことも喜ばれた。

参加者の中に野菜嫌いの子どもがいたが、自分で作ったカレーを残さずに食べた様子を見て、この体験をきっかけに野菜を食べてくれるようになるかもしれないと学生が感じたことを受け、担当教諭も学生が食育の素晴らしさに気づくことができたと言っていた。

日々関係団体の皆様が様々な場所で継続したり、新しい取組をすることは、それぞれ非常に大切なことだともう。担当者の知らないところで実を結んでいることもあると思う。

大変なことであるが、今後も皆様からご意見をいただきながら充実した活動を行なっていきたいと思っている。ご協力をお願いします。

(3) 食育推進計画について

(事務局)

第3次たからづか食育推進計画の延長について(資料6)、令和8年度実施の食に関するアンケート調査(案)について(資料7)事務局より説明。

(委員)

第3次たからづか食育推進計画の策定時と同様のアンケート内容で実施するということだが、前回達成度を評価する際に、食育の取組を行なっても数値にあまり変

化がないという意見があった。今回も同じ方法で行なうのであれば、数値は変わらないのではないかな。

せっかく提案から始まり食育出前講座を実施しているのであれば、その小学校・中学校をターゲットとして3年後・5年後の変化や実施していない小学校・中学校との差をみてはどうか。

3年後・5年後に他の小学校・中学校と比べ数値が高くなっていけば、出前講座の効果を示せるのではないかな。アンケート調査は、そのような方法で調査を行なわなければもったいないと思う。

(事務局)

多様な取組について、その取組の効果を数値で表わしてはどうかという提案を以前から何度かいただいている。認識はしているが、地域を特定したアンケートは、集計後の公表方法について慎重にならざるを得ないところもある。また、今回の調査は3年間延長のために実施するため、アンケートの取り方を変えるのは難しいところもある。

また、まだ一度も出前講座の依頼のない小学校もあるが、市としては、市内全域での実施を目指していきたいと考えている。そのようなことも鑑みながらどのような方法がいいのか検討していきたい。

(委員)

前回の第3次たからづか食育推進計画策定時のアンケートの回収率が高いのか低いのかわからない。今回も同じ方法で調査をして、同じような回答率になることが有効な手段なのかという判断も必要ではないかな。無作為に調査票を送付しても、回答しない人も多いのではないかなと思う。

郵送料もかかるのであれば、市内のサロンや子育て活動をしている団体等にアンケート調査の依頼をして、回収をしてもらうことも可能である。一方的に送る方法もあるが、直接イベント等で依頼をする方法も1つの方法だと思う。当事者意識の高い意見も届くのではないかなと思う。

(事務局)

アンケートの回収率は他の計画においても概ねこの程度が現状である。

今回は3年間の延長であり、アンケートの取り方については変えずにやりたいという思いがある。しかし、いろいろな場面に来られる層の方々にアンケートを行ないそれぞれの考え方をすることも大事だと思っている。

今回は紙で考えているが、最近では、公式LINEを活用してWeb上で回答してもらう方法もある。

いただいたご意見を踏まえ、どのようなことができるのか、考えていきたい。

(委員)

このような政策の決定にまつわるアンケートは継続性が大切なので、これまでのアンケート調査の方法を踏襲し、どのように変化したかを見る方法がよいと思う。

この食育推進会議で行なっている事業に関する市民の評価は、この調査とは別に、実施しなければならないと思う。

事業の評価にまつわるアンケート調査と、市全体としての食育の推進に関するアンケート調査の2本立てでやっていくべきだと思う。

事業の評価等、部分的なところを調査する際には、デジタルを使い回収率を上げるやり方があると思う

資料7のアンケート調査用紙について、「食育に関心も持つ人の割合」の数値が上がらないのであれば、設問の下に、どのようなことが食育なのかをしっかりと提示した方がよいと思う。

成人のアンケート調査用紙、問 14・15・16 の質問について、どこが違うのか、どこを聞きたいのか、アンダーラインを引くなどしてわかりやすくしてはと思う。

(会長)

委員の皆様のご意見すべてを反映できるかはわかりません。事務局で判断していただければと思っています。

今後のスケジュールとしては、アンケート調査票を作成し、12 月から 1 月頃にアンケート調査を実施する予定のようです。

次回の会議ではアンケート調査の結果速報をお聞かせいただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

本日の会議の議事録は、事務局と調整し、私が確認させていただきたいと思います。